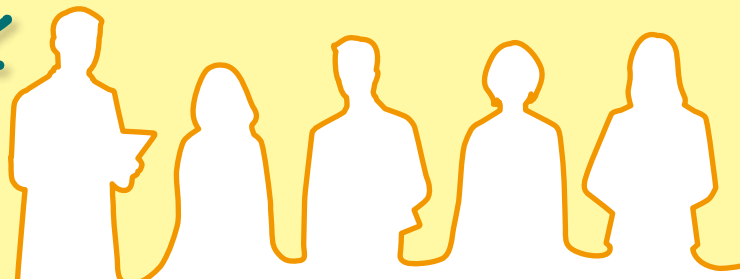


これからの横浜の 医療と介護を 考える

日時

平成29年1月29日(日)
13時00分～16時00分



年を重ねても安心して医療を受けられる横浜へ

日本の高齢化は世界に類を見ないスピードで進んでおり、団塊の世代が全て75歳以上になる2025年には、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上になります。医療や介護が必要な状態となっても、住み慣れた地域で安心して生活が続けられるようにするためにはどうすればよいのでしょうか。これからの医療と介護のことを一緒に考えてみませんか。

場所

はまぎんホール ヴィアマーレ
(横浜市西区みなとみらい3-1-1)

定員

450名
(事前申込制)

受講料無料

プログラム

テーマ

「医療と介護はどのように変わっていくべきか」
～「とことん」から「まあまあ」型医療へ～

講師 国際医療福祉大学大学院 教授 たか はし 高橋 たい 泰氏



テーマ

「2025年問題に向けて市民が知っておきたいこと」

講師 認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML 理事長 やまぐち 山口 いくこ 育子氏

テーマ

「記憶をつなぐラブレター 母と私の介護絵日記」

講師 画家・タレント きど 城戸 まあこ 真亜子氏





高橋 泰氏

金沢大学医学部卒業、東大病院研修医、東京大学医学系大学院(医学博士)、米国スタンフォード大学アジア太平洋研究所客員研究員、ハーバード大学公衆衛生校武見フェローを経て、1997年より国際医療福祉大学教授、2004～8年医療経営管理学科長、2009年より大学院教授。2016年より医療福祉学部長。現在安倍内閣の未来投資会議「医療・介護—生活者の暮らしを豊かに」会合副会長。



山口 育子氏

大阪教育大学卒業。1991年自らの患者体験から患者の自立と主体的医療の必要性を痛感していた時COMLと出会う。1992年活動趣旨に共感し、COMLスタッフとして相談、編集、渉外等を担当。患者や医療者のコミュニケーション力を高める講座の企画にも携わる。2002年NPO法人ささえあい医療人権センターCOMLの専務理事兼事務局長。2011年NPO法人ささえあい医療人権センターCOMLの理事長。



城戸 真亜子氏

武蔵野美術大学油絵学科卒業。画家、タレントとして、テレビ・CM出演、アートプロデュース、執筆活動、個展等、幅広い分野で活躍。また、自身の介護経験を基に各地で講演も行う。著書に、『ほんわか介護—私から母へありがとう絵日記』、『記憶をつなぐラブレター—母と私の介護絵日記』など。

会場案内

- JR・横浜市営地下鉄線：桜木町駅下車 動く歩道利用5分
- みなとみらい線：みなとみらい駅下車
「クイーンズスクエア連絡口」「けやき通り口」より徒歩7分

※駐車場のご用意がございませんので、ご来場の際は、公共の交通機関等をご利用くださるよう、お願い申し上げます。



申込方法

2017年1月11日(水)～1月24日(火)までにお申込みください。

F A X 045-664-3851

電 話 045-671-2993

メールアドレス ir-seisaku@city.yokohama.jp (横浜市医療局医療政策課)

【手話通訳をご希望される方へ】 手話通訳が必要な場合は、その旨を備考欄にご記入下さい。

※定員を超え、ご参加いただけない場合にも、1月24日(火)までにご連絡します。連絡がない場合は、申込者全員が参加いただけます。

当講演会の様子を撮影し、横浜市ホームページ等で動画・画像を使用させていただきますので、あらかじめご了承下さい。
※いただいた個人情報は、本講演会に関する事務以外に使用しません。

地域医療構想は、将来の医療需要に応じた医療提供体制について、地域ごとにまとめたものです。

地域医療構想講演会「これからの横浜の医療と介護を考える」 FAX参加申込書

代表者名	ふりがな	参加人数	
電話番号			
FAX番号			
備 考			